

中小企業振興会議 地域商業の魅力と活力の再生検討部会 議事要旨

日時	平成28年2月1日（月）午後6時00分から午後8時30分まで
場所	東大阪市役所総合庁舎12階会議室
出席者	○中小企業振興会議委員他10名 ○事務局 東大阪市経済部商業課
案件	商業振興の推進体制強化に向けた検討

会議の経過は以下のとおり。

【1. 会議の目的】

- ▶ 東大阪市商業振興ビジョン（以下、「振興ビジョン」）に基づくコーディネート事業の位置づけおよび概要について配布資料に基づき事務局より説明をした後、コーディネート事業を受けて実際に現場で活躍する若手商業者グループ「小阪まちゼミの会」ならびに「若江岩田きらりプロジェクト」による活動事例や課題等が紹介された。それを受けて、商業振興の推進体制強化に向けた検討について議論、意見交換を行なった。

【2. 会議の総括】

- ▶ 振興ビジョンに基づくコーディネート系事業の実践を通じて、商業振興のサポート体制があったからこそ、やる気のある若手商業者の発掘や応援ができており、既存の商店街組織の枠を超えた、商業集積地全体の活性化を目指す新しい組織（小阪まちゼミの会・若江岩田きらりプロジェクト等）の活動につながっている。やる気のある若手商業者の発掘とプロジェクトとして応援していく商業振興サポート体制の強化は、今後も行政として引き続き継続していくべきである。
- ▶ 異業種連携（例：市内の元気な商業者と農業者や製造業者）を通じた更なる地域商業活性化に向けては、行政にマグネットの役割を果たすべくプラットフォームの構築等が求められる。

【3. 質疑・意見要旨】

- ▶ **（委員）** コーディネート系事業の商店街における推進体制および継続性やPDCA評価等についてはどのように審査しているのか。
- ▶ **（委員）** 商店街は将来の生活基盤としての「てこ入れ」が求められており、審査においては意欲を重視している。組織体制の確認については、個人および少人数での実施に留まる事業となっていないかを審査部会において厳しい視点で確認している。事業の継続性については、企業のように財務諸表等で判断が取れるものではないが、段階的な計画の発展性、若手商業者の巻き込みができていのかどうかなどにより確認している。
- ▶ **（委員）** コーディネート系事業は、目に見えた成果が見えづらい部分もあるが、商店街組織を超える形で、商店街の若手が集まって活性化に向けた話をすることに意味があると思う。
- ▶ **（委員）** 箕面市の商店街には多くの来街客がいる。これは、行政が観光ルート整備、道路整備、施設整備を率先して行なっているからだと思う。人が来るだけでなく、お金を落としてもらう工夫が必要である。
- ▶ **（委員）** （コーディネートを受けて商店街の枠を超えたグループを立ち上げて事業を実施する事で）これまで商店街ごとに分かれて交流のなかった商店主間に横のつながりができ、自分たち自身で積極的に自店の資源を活用したコラボレーション企画等について話すようになり、商店街を超えた新たな組織ができつつあるのはすばらしいと思う。活動に参加する店舗がなかなか

か増えないなどの課題はあるが、地域にいいお店がたくさんあることをアピールし、個店のファンづくりを推し進めるためにも参加店舗をもっと増やしていきたいと思う。

- **(委員)** 若い店主が少ないこともあり、商店街の枠にとらわれるのではなく、商業集積地として商店街に加盟していない店舗にもグループへ参加してくれるように呼びかけている。商店街とも連携はしていきたいが、商店街とは異なる趣旨で活動しているので、行政のサポートを受けるために常に商店街の力を借りなければならなかったり、そのために既存商店街から青年部として扱われたりすると大変なこともある。少額でもいいので、グループ活動に対する補助金交付などの行政支援が欲しいと思う。また、若いメンバーでグループを立ち上げた事で、これまで出会えなかった人と関わる機会ができたことは素晴らしいことである。このネットワークを広げるためにも、行政には、市内の若手事業者のネットワークづくりや、工業、農業等の異業種をつなげるようなプラットフォームづくりを期待したい。
- **(委員)** 小阪まちゼミの面白いところは、店主と消費者がコミュニケーションをはかることができることと、プロの技を学べる事にあり、大型店との差別化戦略に適っていると思う。小阪まちゼミへの参加店舗は増えているのか。また、小阪には大阪商業大学、大阪樟蔭女子大学があるが、学生が商店街を素通りして買物されていないように感じる。学生を取り込む工夫はしているのか。
- **(委員)** 増減を繰り返しながらであるが、平成25年度の15店舗から現在は23店舗へ増えている。一度参加したが効果がすぐに出ないことを理由に次の参加をやめてしまう店舗等もある。すぐに効果が出るものではないが、今後の商店街にとって重要な事業であることを理解してもらい必要があると感じている。学生の取り込みについては、学生が立ち寄りたくなるお店が少ないという課題がある。まちゼミ活動等を通じて、もっと学生に来てもらえるよう努力していきたい。
- **(委員)** 学生は昼食をコンビニでカップラーメンを買って済ませたりすることが一般化している。昼休みの時間が短いことも相まって、なかなか商店街まで出てこない。例えば一人暮らしの学生には需要があるかもしれないので、訴求できるものを考えることは一案だと思う。
- **(委員)** 商店街のような旧来の体制から新しい体制が出てきたのはよいことである。既存商店街と連携しながらがんばって欲しい。
- **(委員)** (コーディネートモデル地区の審査をする立場として若江岩田きらりプロジェクトの活動メンバーが) 当初の5名から17名へ増えているのは感慨深いものがある。消費者にとって、出入り自由でウインドウショッピングが気軽にできる百貨店等と違い、個店における買い物は敷居の高いものである。(小阪まちゼミの会も若江岩田きらりプロジェクトも) すぐに売上につながるものではないが、個店への高い敷居を下げるための重要な取組みである。(小阪におけるコーディネート事業自体は平成24年度の段階で終了しているが、) まちゼミの取組みを通じて新しいメンバーも増えているので、新規テーマなり、仕切り直しなり、もう一度コーディネートを受けるのもいいのではないか。
- **(委員)** 百貨店においても、ウインドウショッピングではお金は落ちないので、メイクレクチャー等の「コト消費」イベント実施による買いまわり効果を高めることがトレンドとなっている。売上に直結するものではないので、店主の皆さんが自主的にそういったことを行なっていることは非常に素晴らしい。ただし、継続性が重要になると思うので、がんばって欲しい。
- **(委員)** 若手事業者グループの活動と観光連携のようなことはできないか。
- **(委員)** ボランティアガイド不足の状況ではあるが、将来的には各商店街への名物ガイド派遣等で連携できたらいいと思う。

➤ **(委員)** 東大阪府中小企業振興会議には、工業、商業、農業の三つの部会がある。これら部会をつなぎ、例えば地域の農産物を使った商品開発など、具体的な展開や、事業を通じた連携、横串を通すようなところまでは現状進んでいない。地域の発展のためにはそういったことが必要になってくる。商業においては、商店街の中から新しい若手商業者の芽がでてきており、地域の発展を考えておられる。今の段階ではやりたいと思っけていてもできないことも多いかもしれないが、例えば自分たちの取り組みや、求めている人材などを発信することで、ボランティアのようなメンバーを集めていくことができるかもしれない。「地域をどうしたいのか」という1つのビジョンを持ち、欲しいもの、求めるものを発信することで、そこに共鳴する人々が集まって来てくれるのではないか。商業からも地域の発展に向け皆の力を結集していけるような取組を創って行っていただければと思う。振興会議の中では工業の部会から商業や農業と連携したいという声もあるので、商業側から「具体的にこういうことを求めている」というのを示していただければ、次の一歩に進むこともあろうかと思う。

【4. 配布資料】

- ・ 資料1 中小企業振興会議（全体会議）資料（平成27年11月27日開催分）
- ・ 資料2 地域商業の魅力と活力の再生検討部会議事要旨（平成27年10月26日開催分）
- ・ 資料3 コーディネート事業の流れについて
- ・ 資料4 商業振興コーディネート事業の概要および事例について
- ・ 資料5 元気グループコーディネート事業の概要および事例について
- ・ 資料6 地域商業の魅力と活力の再生検討部会委員名簿
- ・ 参考1 小阪くらしの大学開催チラシ（2015秋版/小阪まちゼミの会資料）
- ・ 参考2 若江岩田きらりプロジェクト紹介チラシ
- ・ 参考3 若江岩田きらりプロジェクトコラボ企画チラシ「20歳の記念パック」
- ・ 参考4 若江岩田きらりプロジェクトフリーペーパー①（vol.1冬号/26年度）
- ・ 参考5 若江岩田きらりプロジェクトフリーペーパー②（vol.2春号/26年度）